

平成 25 年度 第 6 回恵那市市民評価委員会

議事録（要約版）

日時：平成 26 年 3 月 25 日（火）

午後 1 時 30 分

場所：恵那市役所北会議棟大会議室

-
- 1 委員長あいさつ
 - 2 議事
市民評価委員会提言の対応状況等について
 - 3 その他
-

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、奥村ひとみ、柘植麻美、平野美保

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画課長 千藤秀明、企画課係長 服藤知晃、企画課主査 橋本孝純

1 委員長あいさつ

■事務局（進行） 定刻になったので始める。部長が3月31日に退職するので今日はあいさつ回りがあり欠席する。課長等上層部は市長から人事の呼び出しで、夕方には末端の職員まで内示が出るのでバタバタしている。今日は20件の提言について各課の対応と、内容の薄いものもあるので担当課から説明し、質問も受ける。委員長からあいさつを。

■委員長 年度末を控え、行政サイドで人事の発表があることや、委員も会議がダブっていて欠席の人もある。団体では役員が代わったこともある。今日は少数精鋭で行く。

昨年10月に20項目の提言をして、5カ月経過した。全体の提言は、各課の対応としては、今年度市の予算にどう反映されたのか。3月議会も20日に終了し、恵那市の予算と事業が公表されている。それを含め、提言と各課の対応について、事務局から説明し、担当課から補足説明する。4時までには終了したい。20項目の提言の反映がどう対応されたかの視点を第一にし、時間が余れば、来年度の行政評価のあり方をどうするか、私から提案し、よければ事務局として取り組んでいただき26年度の市民評価について評価していきたい。

■事務局（進行） 進行はここから委員長にお願いします。

1 幼稚園・保育園の一元化

■委員長 ただいまから始める。1番目について。

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 担当から補足説明を。

■子育て支援課 保育料の調整について。今、保育料は、7階層ある。保護者の所得によって負担する金額が変わる。以上児では、一番低いのが月0円～28800円。幼稚園は所得に関係なく定額で、月授業料が6900円＋給食費3500円で月10400円。保育料の平均は月23000円前後。保育園の方は保育時間が長いので保育料が高いのは当然だが、1時間当たりにも差がある。子ども園に向けて、統一に向けてやっている。案も最終まで来ているので、でき次第、新年度全園に保護者説明に行く。

指定管理は、岩村、山岡の2園について25年度取り組んだが、公募した結果、岩村は恵峰学園1法人の応募があり、審査し、3月議会で議決を得て、正式決定した。26年度は引き継ぎをして、27年度から移行する。山岡は10月から12月公募したが応募がなかったので26年度再公募する。

■委員長 質問はあるか。

■委員 今年度予算の総額は。

■事務局 当初の購入で125万5千円、そのほか講師料や事務費で、大体200万ぐらい。

■委員 そのほか、担当職員の時間が人件費としてかかる。去年と比べて増えたのか。去年の成果表では573万だったが減っているか。準備期間が終わって実行するから、そちら

の事業費として計上されているのか。

■事務局 金額としては、577万で少し増えている。

■委員 順調にスタートしたということか。最終年度として頑張るとのことか。

■事務局 そうだ。

■委員 本の購入は何冊ぐらいか。

■事務局 全部で16園あるが、大型本でこの壁の半分ぐらいある本あり、視覚で覚えさせたい。大型でない普通の絵本もあり、1園に10冊ぐらいだと思う。

■委員長 対象園にすべて配布されるのか。

■事務局 そうだ。

■委員 一元化はそんなに簡単にできるのか。一気にそうなるのか。

■事務局 26年度前半では子ども園制度について保護者に説明し、今年9月10日には子ども園として募集をかける。子ども園なので市の条例もカバーしている。

■委員 準備が長かったのも、本当にうまく一元化できれば画期的だ。よその省庁で勝手にやっていたもの。基本的には、時間単価の統一でもめていたのか。

■事務局 恵那市の場合は保育料の統一で時間がかかった。

■委員 考え方としては統一しようということか。

■事務局 そうだ。

■委員 所得の要素は、保育園にある。考え方としては、幼稚園はある程度所得が高いと仮にすれば、保育園のあまり減免のなかった人と時間単価をそろえていこうという考えか。

■事務局 そうだ。

■委員 子ども園ができた後は、子育て支援課ではなく教育委員会に移るのか。

■事務局 そうだ。

■委員 今まで苦労していたのを手放すということだ。

■委員長 保育料と授業料との平均月額を説明されたが、これを含めてやりとりがあったが、保護者説明に対する考え方の案は。ここでやっていたが保護者にする案をこれらから説明していくのだが、立ち入ったやりとりがあったと思うが具体的にその考え方はどういう内容か。数値的な資料はないか。

■事務局 資料はこちらにはない。考え方を話す。保育料は、階層になっている。幼稚園が給食費を含めて10400円。保育料の平均が20300円。恵那市としては保育料に合わせる。幼稚園では上がることになる。が、急激に保育料があがると保護者も簡単には納得されない。3年ほどかけ段階的に引き上げる。経過措置をとる。幼稚園に通っている人も、所得によっては10400円から下がる人もいる。トータルすると、下がる人も上る人もいる。所得に応じて考えるし、国もそういう考え方だ。整合性をとれということだ。

■委員長 授業料のほかに、保育料の理念、考え方に合わせるということだと思う。経過

措置をとりながらやるということは、議会に出すのか。

■事務局 出さない。国のガイドラインが来るのが遅れていて、27年度からになるので、それと照らし合せて市で案を作り、保護者に理解いただければ議会に上げて条例を制定する。

■委員長 そういう流れがあることを承知してほしい。

私から2点聞きたい。恵那市の子ども園の建設予定地にヒ素が検出された。除去作業にかかわるところから、土地の取得がいつになるかと言われているが、スケジュール的にどのような段階まで行ったら取得するのか。

■事務局 今、土地の取得が遅れているのは中に基準値を上回る汚染物質が入っているわけで、それを全量撤去するのか、法をクリアするように部分的に撤去するのか協議中だ。それが調べば撤去した状態になるので、どれだけ取るかだ。取った後、園児の健康に影響がないようにしないといけないので、その辺も考え、それがまとまった段階でいつごろになるか分かる。

■委員長 その見極めを専門家がかかわらないと問題があるので配慮してほしい。

もう一つ、指定管理者制度のことで。先ほど事務局から山岡と岩村の課題が提起された。岩村については、1年間の経過措置をしながら27年度から実施すると。私はこのことについて、行財政改革審議会にかかわっていた。地元説明が長かったようだが、検討委員会のスケジュールがきわめて短かったそう。私は指定管理の中身は分かったが、岩村保育園の保育内容を全然見ずに結論が出されている。指定管理を受ける側の内容もだが、今行っている保育内容を検討委員会がよく見た方がいい。初めて保育内容の差が、問題が指摘されれば充実をするようにという問題提起ができる。指定管理の問題は、その辺の丁寧さを考えてもらわないといけない。

もう一つは、私は知らなかったが、このことについての保護者相互のアンケートを取った。それは保護者会がやったということだが、賛成の人は記名しなくていいが反対の人は記名しろという言い方だと、非常に表現がしにくくなる。保護者が正直にアンケートを出すには、無記名で思ったことを全部出すことが必要だ。そのことが岩村で検討委員会に来ていただいて昨日実感したので、今後、行政としても、それをするにしても、保護者が純粋な思いでアンケートに答えられるよう指導してほしい。丁寧にやってもらいたい。

ほかに意見はないか。では次に進む。

2 林地整備地域活動支援事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 担当課から補足説明があれば。

■林業振興課 3つの対応を取った。

森林整備地域活動交付金事業。森林経営計画の補助金を受けるための計画を作るための人件費、森林調査にかかる経費を補助金で執り行う。平成 26 年度に引き続き、森林経営計画の作成ということで、市内 470ha が対象で、総額 2000 万円の予算。平成 25 年度実績は、市内 444ha の経営計画を樹立し、それに対し交付金を使った。平成 26 年度 4 月以降の森林整備は 444ha のうち 200ha が間伐予定面積。

森林環境税を活用した森林整備。林地に放置された未利用材を搬出するための補助。平成 25 年度は 1 年度間で 440 トンが林地から搬出された。まだ 3 月末までである。伐り捨て間伐補助金は、平成 26 年計画で 405ha、8 千万円。平成 25 年度の間伐面積は恵那市で 566ha がこの県の環境税で行われた。事業費は 1 億円強。

里山林整備。平成 26 年度森林山村の多面的機能発揮対策の資料を配ってある。今年度から始まった事業で、今まではもっぱら人工林の手入れが対象だったが、25 年度からは人家に近い里山林整備を促進しようと始まった。地域の住民が森林所有者や民間団体、自治会単位で団体を組織して、荒れている里山林、竹林の整備、林地資源を有効に活用するための支援措置だ。対策交付金の対象活動、支援単価が書いてある。里山林の保全活動、竹林の整備、除去、森林資源の有効利用といったこと、森林の空間利用、安全講習や、子どもを対象にした森林環境教育、森林レクリエーション等の行事、イベント等で使うための対価。平成 25 年度から始まり、市内では民間で 5 団体手を挙げて 2 月末までに活動した。この制度は平成 27 年度までの 3 年間の制度だったが、1 年延長され 28 年度までとなった。26 年度から新たに 2 団体が手を挙げ、26 年度は 7 団体が里山林整備の活動を展開している。

■委員長 質問があれば。

■委員 国の補助事業と県の環境税を使った事業と、新たにできた里山林の事業の 3 つで、ほかにもあるのか。

■林業振興課 国の補助金制度と、県の森林環境税のものと、人工林以外のものだ。

■委員 里山林はどここの補助金か。

■林業振興課 国だ。

■委員 3 つ合計でどれぐらいの予算か。

■事務局 1 番目の活動支援交付事業費は、森林整備を行うための計画書づくりだ。それを 25 年度で 444ha、7 地区計画が樹立された。そのうち、26 年度は 200ha を国の補助で搬出間伐を行う。この事業は、市の事業もあるし民間団体が行う事業もある。特に恵那市森林組合と恵南森林組合が計画を立てて地権者との合意形成をして事業を行うので、うちで直接予算を把握していない。

それと、県の環境税は伐り捨て間伐で、森林組合が行う事業がたくさんあるが把握していない。事業費としてつかんでいない。

■委員長 ほかに。

130 万ぐらいでトン当たり 3000 か。

■事務局 そうだ。

■委員長 440 トンという実績は、3 月までにまだ増える可能性があるということだ。

地域もしくは自治会単位でも対応できるという地域環境保全タイプは、市民への周知をしているのか。

■林業振興課 25 年度からの事業で、岐阜県のホームページにはあるが、皆さんには周知していない。議会には説明している。ただ、今活動しているのはこういうことに興味がある人ので、そういう人がこういう情報をとる。以前から山に入って活動している団体が多い。

■委員長 たとえばこれは、環境保全タイプの侵入竹除去や竹林の整備、現在は住宅地に近いところであるということで、持ち主の手入れが悪いと乱雑になっているというところがこういうものによってできるとするなら、土地所有者に了解を得れば、自治会で団体名を作ってそこでやれば 38 万円の費用の対応ができるということか。

たとえば自治会がやる主体性をもって、こういうものを扱う人をお願いすると、そこにかかる費用は 38 万円ということでもいいのか。

■林業振興課 そうだ。

■委員長 それなら市民に周知を図るべきだ。周辺地域の人里に近い環境も保全されてくる。いいメニューなので市民への周知を考えてほしい。

3 都市計画道路・用途見直し事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 担当課から補足を。

■都市整備課 平成 26 年度、都市計画道路及び用途の見直しについて調査を行うことと、その関連で、現状の用途を解析する。都市計画道路も現在の計画をもう一度分析する。本年度策定されたリニアまちづくり構想からの将来予測や、住宅需要の構想からの案も受け、1、都市計画用途地域の見直し、将来用途の基本方針の検討。2、都市計画道路の見直しも、交通量の調査を行い、現状の道路の分析をして、見直しの方針を決定して道路整備計画を検討する。

■委員長 質問はないか。

■委員 1 と 2、検討して完結、基本方針が新しく出来上がるのは 26 年度なのか。どこまで検討するのか。

■都市整備課 現在、都市計画マスタープランが作成されており、それに方針や検討を行って、リニアまちづくり構想を取り込んで都市計画マスタープランに反映させる。

■委員長 ほかに。

特に、リニアとの関連では、概ねの地域が分かるが、その用途として捉えていくということの考え方として、具体的にこの地域ということは今の段階では言えないか。

■都市整備課 今後道路整備もありその兼ね合いもあるので、その交通状態が変わるということも踏まえて用途の見直しや都市計画道路に組み込む。現在の都市整備課と現在の建設課との協議も必要になる。今どこの地域ということは言えない。

4 まちなか市の開催

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 担当課から補足があれば。

■商工観光課 提言の中に、特に常時にぎわう工夫とか、それについては実施している内容を検証して改善しながら進めてほしいという提言をいただいた。対応として、マンネリ化ということもあるが、今会議を進めている。商店街の商店の人が日常的に買い物できるPRがされていないという状況なので、まずは店を知ってもらおうということで、500円ワンコインで各店が祭りごとに目玉商品を出す。それから、もう一点、この地区は商店がない自治会なので、自治会の方に、まちなか市の運営委員会に出ていただきたいということで、積極的に働きかけている。

■委員長 質問はないか。

■委員 今、商店街の方に参加してもらって取り組んでいるのか。反応はどうか。

■商工観光課 それぞれの店で、ワンコインで、まちなか市のときに出せるものを出してもらおうということで考えてもらっている。商店街連合会から、積極的に説明してもらっている。結果がまだ戻って来てない。

■委員 現在の恵那駅前、岩村町、明智町。ワンコインは岩村か。

■商工観光課 恵那駅前だ。100円か500円か千円かは分からないが、各店独自で考えてもらうことで、店の紹介をしたい。

5 岩村地域特産物販売施設維持管理経費

[事務局から資料に基づき説明]

■商工観光課 提言への対応として、建設当時と社会情勢が変わっているということは考えているが、今後もさまざまな面から利用法を検証し、民間への移譲も視野に入れて検討する。

この施設は平成元年に供用化したのが、農村地域定住促進対策事業を入れて作った。これは国庫補助金で、期限が26年間。それまでは補助金の縛りを受けたが、それを超えれば自由にできる。平成27年以降はいろいろ検討することが可能だ。28年に市の行革や総合計

画の見直しの年になるので、そのタイミングでこの施設をどのように使うか検討してもらいたいと思っている。

■委員長 26年間の補助期限のものが切れるので、平成27年度から対応できるということだ。補足だが、現在の物件のあるところと全体の広場は私有地か。

■商工観光課 私有地だ。3分の1ぐらいが市の土地で、残りは民間の不動産会社が持っている。

■委員長 景色のいいところに少し、お客さんが寄ってみたいという感覚の環境整備が必要だ。その点について、行政として、民間の関係者もあると思うが、そういう方向をどうするか検討しているか。

■商工観光課 監査のときも、あそこも昔からの古い看板があって剥げていて見苦しいという指摘をもらい、その通りなので撤去した。環境についてはそのように進めたい。

■委員長 考え方もあるという。

■商工観光課 そうだ。

6 山岡地区農業関連施設維持管理経費

7 山岡農村婦人の家事務局管理経費

8 山岡花・野菜育苗施設維持運営経費

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足があれば。

■山岡振興事務所 山岡地区農業関連施設は、集落農事集会所は話のあった通りだ。やすらぎの里「コテージ石楠花」は、今年度のうちに組合長の打診もしているが、組合長が交代する。年度が変わったら新しい組合長に話す。ただ、いずれにしても、指定管理を受けている組合の規模が小さく、8戸の集落8人が頑張っている。その割に施設が大きいので難しいところがある。何とか前に進みたい。

農村婦人の家は27年度補助金が切れる。限られた利用者なので順次理解を賜ってきているが、まだ使っている人がある。農村女性の福祉向上のためのものなのだ。特殊な利用形態もあるので、どういう形にするかは難しいところがあるが、特殊事情、限られた利用なら、同じような形態をとると同じものの繰り返しになるので、勘案しながら進めたい。

花・野菜育苗施設は、御覧いただいた通りの状況だ。指定管理料は頑張っていて努力してもらっているが、組合員としてかかわる人が少なく、農高とのタイアップなど、今はイワクラ公園のササユリの関係で農高がかかわっている。そのあたりで何とかきっかけを作りたいが、新たなことを進めるには、リスクを怖がっており、そうすると新たな運営形態を、イワクラ公園の整備とされるということで、少しあのあたりの状況が変わるので、

新たな方向性が出ると思う。その辺も視野に入れて動いている。

■委員長 農業管理施設維持管理経費について、質問はあるか。やすらぎの里コテージの規模はどんなものか。見に行っていない。

■山岡振興事務所 山奥にあり、山岡と岩村と上矢作の木の实牧場の奥の山岡側。8戸集落なので、集会所機能と併せて都市交流もできるということで農水省の補助をいただいて作られた。何も無いところで、川魚や地の物を食べさせるところができるということで、こういった補助金を活用した。コテージ機能と集会所機能を兼ね備え、木造2階建て200㎡弱で、わりと大きく、囲炉裏があり、炊事も自分たちででき、2階で寝ることができる。料金収入で年間100万円ぐらいある。夏場は使っている人が意外という。リピーターばかりだ。ただ、それを受けてもらおうと思うとなかなかない。

■委員長 1つの建物で200㎡か。

■山岡振興事務所 2階と合わせて197㎡。木造2階建てで宿泊可能。基本的に自分たちで炊事をして、囲炉裏や外にバーベキューの設備もある。

■委員長 夏場でも厳寒期以外は、青少年育成団体などともう少し利用についてのネットワークを考えていくことも必要ではないか。年間100万円程度の利用料があるので、自然とのふれあいが最もいいという場所なら、そういう青少年、子どもを中心としたところも、活動に使ってもらえるようなネットワークを作ったらどうか。移譲もしくは廃止という荒っぽいことを言うまえに、そういう手法も考えていただいて努力いただきたい。

婦人の家維持管理経費。これは利用者があるというものの、基本的だったものがおばあちゃん市に移ったと聞いた。まるきりだめになったのではなく新たな発展をしているということだ。若干の利用者に配慮願いながらやっていただければいい。これについて質問はあるか。

育苗施設について。人気商品もあると聞いた。前年度予算8.7%減だが、状況に応じた数字だと思うが、この辺も、農高のかかわりがあるとするなら、そのあたりの若い目線と連携を深めてもらうのがいいと思う。人気のある盛り籠など。

■山岡振興事務所 アレンジや寄せ植え。

■委員長 恵那農高は今年の世界ラン展でも最優秀賞だった。そういった点では生徒のセンスはいいので、今みたいなものをもう少し違った知恵も入れて、年代幅の広いところで。売れるものがあれば特化して、この施設に多くの人が入り出ることができることを考えてはどうか。農高とのかかわりを持つことが大事だ。特に、文科省などはそういった実業高校については地域産業との連携について積極的に問題提起していると聞いている。学校側のそういった考えがあれば対応できると思う。阿木川ダムのアオコ発生で空芯菜の問題にも取り組んでいる。若い目線の知恵をこういったところに盛り込むことが大事だ。

■事務局 ここに初めて行って、非常に高レベルの物を作っていると感じた。写真で紹介

のあった門松の寄せ植えを買ってみた。それで商売をやっている義理の母に渡したら非常に喜んだ。こういうレベルの高い物を恵那で作るのかと。

■委員長 その辺の宣伝の仕方を少し考えてほしい。今はインターネットですぐ伝わる環境があるので、人が来なければ伝わらないというものではないので。

9 明智地区農業関連施設維持管理経費

10 明智地区農産物加工施設維持管理経費

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足があれば。

■明智振興事務所長 東方センターと杉野センターは3月20日に議会の承認を得て4月1日に契約し地元移譲する。横通集会センターは地元の合意が得られ、今地元でどこが修繕が必要か地域で話し合い、振興事務所に話していただくよう進めている。26年度中に議会の議決を得て27年4月1日に杉野センターと同じような形で地元へ移譲という形で進んでいる。生活改善センターは、農協との関係で最初は賃貸という話もしていたが、地域の人の絡みもあり進んでいない。ふれあい会館吉良見は合併前の旧明智町の頃からの話があり、直営でやっているが、地元に入っても指定管理の合意が得られず苦慮している。

農産物のおんさい工房は近隣の道の駅もあり販路を拡大していくが、ある程度数がそろわないと足代の費用がかかるので苦慮してみえる。市内外のイベントには積極的に出て、おんさい工房の加工品や野菜の販売を進めていくということはおんさい工房の役員から聞いている。農産物の安定供給を図るために、48戸の契約農家があるが、それを増やしていきたいと言ってみえるが、なかなか農家が少なく、自分で出される方もあり、なかなかうまくいかない。配食サービスは、高齢者中心と書いてあるが、恵那市お元気見守り食事サービスに2月から登録して進めている。それ以外でもお年寄りが増えているので、おんさい工房は手作りの給食に気を配っている。昔からの食事ということで、高齢者が作るのが面倒くさい場合はそこで頼めれば、明智でなくても串原、陶も含めて進めている。

■委員長 質問はあるか。

■委員 朝市の需要が少し減っていると地元の方に聞いた。どういうPR活動をしているか。

■明智振興事務所長 駅前交流施設でも今野菜を販売している。大正村の広場、ロマン亭の前で、冬はやっていないが、4月から11月頃にかけて野菜の販売を考えている。安くてもいいものと、皆さん目が肥えているので、おんさい工房としては、いつ消毒かを出してもらって安全なものを供給している。

■委員長 ふれあい会館吉良見。吉田小学校が141年の歴史を閉じ閉校となった。指定管理と地元との関係は、施設の移行についてのみではなく、学校が統合して地域の子どもや三世代交流ができるような活動というものを。私の友達も自治会の役員をやっていること

によってその学校を出た子が閉校式に出てしんみりするものがある。なくなることで新たなものを地域に考えていくことが必要だという話をしていた。そういった視点に立った吉良見ふれあい会館の活用と、将来的な事業を行っていくという前提での管理を求めていくことの方が。ただ施設の管理をしてくださいただけよりも、そういうきっかけづくりの中で、地域の歴史ある学校が閉校したことに伴って三世代交流ができる拠点を関係者が創意工夫して作るための拠点にするということについての指定管理の移行。少し意味合いをつけながら地元とやりとりすることも必要だ。その辺は振興事務所において関係チームでそのあり方を。指定管理を受けたがいつも空いているということではだめなので、地域活動ができるようなものを含めて。

それと、もう一つは、明智の地域協議会の地域計画の中にも、それと関連したものを。どういことをやっていくか、所長は地域協議会会長とかかわりをもっているので、この委員会で問題提起を受けたということで、指定管理の課題の追及を考えてほしい。要望する。

11 串原農産物加工施設管理運営経費

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足があれば。

■串原振興事務所長 今の加工する機械は、稼働能力が3分の2で、能力があと3分の1ある。何とかして能力に応じた形で生産を増やしていきたいと考えている。しかし、販売は、若干だが、売ってくれる店への流通がしっかりできていないという問題がある。運搬は、燃料代だけで、生産している。皆様方が持って行ってくれているのが現状だ。大きく広げて流通業者をお願いするほど生産量がないので、両方をかみ合わせながら、低コストに向けていきたい。新商品も、現在いろいろ取り組んでいて、大豆のおからのクッキーなどがあるが、生産にかかるコストが高くなり、大きく生産量を伸ばすには機械が必要になるので、両方見ながら進めたい。現状は生産量が少ないので、何とか今の能力を生かしていきたいと話されている。

■委員長 意見はないか。この事業の一番大事なポイントは遊休農地をどう防ぐか。次がコストや生産の課題だ。25年度、24年度の内容を説明されたが、遊休農地の面積は分かるか。

■串原振興事務所長 串原地域では田んぼが54ha、畑が30haあり、そのおおよそ3割程度が遊休農地になっていると聞いている。遊休化を防止するために、営農組合が主になって、不在地主や後継者がいない農地について、遊休化を防いでいるが、平成25年度の実績では大豆は124.9、営農組合の遊休化方針で行っている面積が248.9aで、100aほど多くなっている。大豆は連作ができないので、その中でローテーションを組みながら作付けし

ている。

■委員長 遊休農地の有効利用は、地域的に見ると、条件的に農地の環境は平場と違って大変でちょっと手を抜けばそうなる。国の減反政策廃止というのが出てきて、これをどうするかは、恵那市も担当課を含めて方向付けされると思う。この活用の中で、販路については、そこでできるものは、ささゆりの湯でも活用していると思う。そういうところの販売量が地元にあるので、遠いところまで豆腐を売りにいかななくても、豆腐料理をたくさん作るという。お年寄りはこちらにやくより豆腐の方がさっぱりしている。ささゆりの湯でも、採れた短距離の中ですぐ対応できるように、3分の1を考えるなら、ささゆりの湯の食堂に最大のものを活用したメニューを工夫してもらって地場利用してもらった方がいいのではないか。ささゆりの方向も含めて、使えるものはいろいろな形で使うべきだ。

■委員 先日行財政改革審議会で、ふるさと納税に地域の特産を少し入れるという話があった。そこには挙がっていないのか。

■事務局 豆腐は難しい。

■委員 クッキーとか。

■事務局 そういうものがあれば、観光協会が窓口になって、恵那市の特産品を2千円分とかのセットを考えてくれるので、そういった部分では可能性がある。豆腐は輸送の問題があるので、その辺の新商品の開発をしてあげれば。

■委員 宣伝になる。皆さんの意欲にも繋がる。

■委員長 ささゆりの湯の食事はおいしい。へぼ料理は行くたびに売り切れでない。そのどの分野かは分からないが、あそこを中心に営業活動を、すぐそばにあるので、力点を置いてメニューの開発をすることだ。

12 恵那峡ハーフマラソン開催事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 スポーツ課から補足はあるか。

■スポーツ課 ない。

■委員長 今年は参加者はどれぐらいか。4月の。

■スポーツ課 3136人です。

■委員長 2700ぐらいで足切りという話ではなかったか。交通事情などがあって。

■スポーツ課 去年は制限なしで募集したら3000を超えた。エントリーしたのは2700。その時の状態を見ると、駐車場の管理態勢、シャトルバスの運行態勢で参加者に不便をおかけしたので、今年は3000人ぐらいで人数を切って、駐車場の運営計画、シャトルバスの計画を大幅に見直している。駐車場も新たにできた工業団地に声をかけて面積を増やし、平山線という道路ができたので、昨年までピストン輸送だったのを、循環型のシャトルバ

スにして、一般の方と混在しないようにする。荷物預かり所、受付の位置など細かなところを丁寧によく見て、今年の運営状態を見て、ゆとりがあればさらなる次のステップとして3000以上を目標にする。検証の年とする。

■委員 大正村クロスカントリーがあった。それはどれぐらいの参加か。

■スポーツ課 1925名。去年より300人ほど多い。

■スポーツ課 2週ほど前に雪が降りコースに倒木がかなりあり危ぶまれたが何とか開催できた。

■委員長 今年の開催に向けて頑張ってもらいたい。

[休 憩]

13 中山道広重美術館事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 質問はないか。私から2点聞く。1つは、入館者のこと。中山道の明治天皇行在所が、改築して2年5カ月経った。3月16日で記帳した人だけでも1万人を突破した。月340人程度が訪ねていることになる。従って、以前美術館にお願いしたが、中山道を歩く人がそんなに多いので、美術館の催し物と連携を図ることで、そういう人が美術館に入るように。最大限連動して広重美術館に来てもらうことだ。担当者のほかに、大井町まちづくり協議会がかかわっているので、そことも連携を図ってもらいたい。参考まで。

もう一つは指定管理の問題。ささゆりの湯は指定管理だ。地元の人を中心とした有限会社を作って運営している。ああいう施設は、営業や内容のことで専門的知識がないとできない。そこで壁にぶつかっている。指定管理を受けている団体の中にもう少しプロ的な人を配置すべきという問題提起がされている。美術館でも、こういう特殊施設について詳しくて企画ができる人を含めて指定管理をしていかないと、指定管理を作る組織の中身の問題を、そこにふさわしい人材を含めた指定管理をするべきだ。そういう視点に立つことが必要だ。どういうことを考えているか。

■中山道広重美術館 美術館は特殊性があるので、専門的な見地が必要だ。学芸員が中心になって展示企画、教育普及、研究調査等を進めていかないといけない。博物館と何ら遜色ない事業体系を取る。現在、公益財団法人中山道広重美術館という認可を受けた。現在、私だけが市の職員で、あとは公益財団法人の職員。特定という形で、公募ではなく、その団体をお願いするので、その団体の強化を図っていくことを今後移行期間として考えて調整するというので、検討会議を昨年6月に立ち上げ、もう5回開催している。それを引き継いで、また態勢の強化の検討をしていく。

18 おおわご遺跡資料館維持管理経費

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足説明はあるか。

■文化課 すでに収蔵庫として利用しており、希望があれば開ける。学術的に見たいということがあれば開けるが、ほとんど収蔵庫として使っている。あとは、年に1回、独立行政法人水資源機構阿木川ダム管理所が周辺施設、阿木川ダム一般利用施設等に係る安全点検として、周辺施設の鍵を持っており、これには教育委員会の文化課、建設部建設課、中津川市商工観光部観光課、阿木事務所と一緒に、年一回ダム下公園を含めて点検している。

■委員長 質問はないか。あの中での収蔵品は多様なものだ。今はいつも行けるという状況ではなく希望があれば入れるということで、オープンにはなっていない。収蔵庫という位置付けだろうが、あれだけのものを市民にどう知ってもらおうかということについて、文化課の担当ではないかもしれないが、同じ地域で正家廃寺があり、市で買い入れた。その点について、正家廃寺も今後いろいろ計画があると思う。単に今のように何も構造物を作らないということではなく、将来的な課題があると思う。たとえば、三重県の松阪市の隣の斎宮というところは、埋蔵文化財が豊富で、今そこに斎宮の資料館がある。そこでは斎宮のほかに周辺地域から出てきた文化財の一括展示をしている。非常に幅広い文化財の展示がされている。ここが一つのモデルだと思う。正家廃寺もそういう展示できるものがあるなら、おおわご資料館に展示することで世に出る。そういう手法も、関連的に考えていくことだと思う。今後の整備計画の中で、おおわご資料館が人目に触れないところで眠っているのもったいないので、活用を考えてほしい。

■文化課 非常にいいものもある。それがおおわご資料館にしまっているもので、考えたい。

14 国際化に対応できる人づくり・まちづくり

19 地域間交流推進事業

20 岩村地域交流事業

[事務局から資料に基づき説明]

■まちづくり推進課 国際科に対応できる人づくり・まちづくりについて。中学生の派遣事業は20回目で334名を派遣した。事務局である交流協会では、20年間オーストラリアに派遣してきたが、この場所や受け入れ態勢も考えて検討していきたいと事務局が進めている。マンネリ化というか、交流先もアジア圏などにできれば移していきたいということも考えている。

国際交流は一般の方にピーアールするのも難しいが、広報紙などを使い、国際交流の活動自体をもう少しピーアールして認知度を高めようと今相談している。

地域間交流推進事業は、旧町時代に、恵南地区が多いが、交流していたところが、合併

した関係で頻繁な交流がやりにくくなっている。岩村、山岡、明智、上矢作等が行っていた。今後交流が難しいなら、防災協定の関連もあるので、そういう交流も一つだと思う。近いところでは、奥矢作では豊田圏が入り組んでおりダムの関係で交流が昔からあり、毎年1回フェスティバルをしている。また、商工観光で、豊田の人に恵那市に来てもらうモニタリングツアーもしているし、商工観光が中心になって豊田に交流に行っている。こういったことは具体的に近い都市との交流が徐々に広がっている。

■岩村振興事務所 岩村地域交流は、岩村城を築城した加藤影廉公の地元ということで、伊豆市の修善寺の牧野河内というところで毎年供養祭が8月2、3日に行われており、そこに交流に出かけ、岩村へは10月第1土日にみこしの祭りに来てもらっている。向こうへ行くと市長もいろいろなところで対応してくれているので、これからも何とか岩村町の今のまちの基礎を作った人の供養祭ということで交流を続けていきたいと考えている。

■委員長 意見はあるか。

■委員 国際交流の事業はすべてまちづくり推進課がされているのではなく、国際交流協会がしていることを支援しているということか。

■まちづくり推進課 そうだ。

■委員 推進課独自の事業はないのか。

■まちづくり推進課 直接取り組むことはない。市から助成金を出して、その中で動いていただいている。まちづくり市民協会がそういった感じになる。

■委員 意向は伝えるのか。

■まちづくり推進課 こうしてほしいというような相談はしている。多言語のボランティアが外国に行ったとき病院などでそういうことをやっている。そういうことをするというような相談はしている。

■委員 私も子育て支援の関係で、外国の言葉しか分からない人が上矢作に多いと聞いている。電話で相談もできないと聞く。外国語で対応していただくようなことができるかと言っている。そういう要望があれば、推進課から国際交流協会へ対応してくれるのか。

■まちづくり推進課 そういう施設もある。連絡先が分かっているということで。ただ、お話を聞いた中では、東南アジア系の方は集まるが、アメリカやヨーロッパ系の方はほとんど利用されないそうだ。ブラジルの方が少しあるそうだ。観光マップやごみの分別なども、英語、中国語、ポルトガル語を書いたものが作ってある。中国の人は漢字を見るとかなり分かるそうだ。ただ、そういうところで、同じ立場で一緒に進めるという立場ではなく、協会があるのでそちらが主体でやっている。

■委員長 今回一つの課題として提言したように、今までの国際交流は出ていくばかりだった。恵那市でも、外国から仕事を求めてきて生活している人への対応が不足しているという指摘の中で、2つ目の定住化のところでも訴えているが、今国土交通省によると、主

要な道路、主要な施設はローマ字ではなく英語に置き換えている。恵那市も、国・県道もあるが、市道、市にかかわる施設は、そういう表現を、一番頻繁に使う道路や公共施設について少し検討することが必要ではないか。さらに提言したい。

地域間交流事業については、旧恵那より恵南地域の方が、地域間交流が先行していたということだ。合併したので、そういう積み重ねてきた交流事業を、全市的に対応できるものは対応していくという提言だ。岩村の件は、向こうが市として対応しているなら、恵那市もそういう態勢をとることと同時に、13地域にもそういう話を広げて、1地域だけが継続するのではなく、幅広くかかわっていただき、13地域がお互いに理解しあっていくことが大事だ。こちらが全市的に対応するにはどうしたらいいか検討してほしい。

両担当事務所では検討してほしい。

■オブザーバー 地域間交流の問題は、合併前の市町村でやっていたものを継承しているわけだ。新しい時代に向けて、都市と農村の交流という問題をどう考えるかという視点で、新しい市として考えられたらいい。防災の話がヒントとして出ていた。東海地震、東南海地震がいずれ起こる。被害を受ける地域と後方の舞台としての岐阜県として、新たな関係を考えたらいいのではないか。どういうところで実際に交流しているかという実態把握が大事だ。同時に、あるべき論のようなものを考えたらいいのではないか。

15 敬老事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足はあるか。

■高齢福祉課 特に補足はない。

■委員長 質問はあるか。

■委員 高齢者の側から見て、77歳になったから敬老の会に呼ばれると思ったら呼ばれなくなったという不満や反対の声はなかったか。

■高齢福祉課 77歳を78歳に引き上げて1200円にしていたが、地域によって敬老会のあり方がバラバラだ。77歳と言いながら80歳以上を対象にしている地域もある。これは算定基礎として、年齢については地域の判断に任せる。

■委員長 大井町は喜寿で、いってみれば同窓会だ。原則論でやって運用は地域で対応ということだ。

もう一つ、老人クラブというのがある。大井町は加入率が低い。私も老人だがピンとこない。老人クラブという名称を変えたらどうかと行政に提案したことがある。賢人の会とか。人生体験とか年代の知恵を世の中に還元する会だという、高齢者に社会に対する役割を分担してもらおう。老人クラブというと現役からこちらの方へという印象になる。うちの近所にも対象の人はたくさんいるが、聞くと俺は老人じゃないと言う。一度、地域のお年

寄りがいろいろな組織に加入して、認知症予防をしたり健康保全ができる形にするのが目標だと思う。名称を考えてほしい。

■高齢福祉課 全国の老人クラブ連合会などどこへ行ってもそういう話が出るそうだ。全国でも県でも法人になっており固有名詞なので変えることはできないが、そうになってないところは自由に名前を付けていいということになっている。恵那市老人クラブがあるが地域の会は別の名前がいい。ただ変わった名前を付けて勧誘に行くと「それは何か」と聞かれ、結局「老人クラブです」となるが、名前は自由でいい。

■委員長 恵那市の通称はこういうものだという検討をしてほしい。単に何歳以上だからということではなく、通称によって、お年寄りの知恵や工夫を社会還元するというのも行政の捉え方として考えてほしい。そういう上で敬老事業を連動させていくことが必要だ。

16 健康祭・歯のフェスティバル開催事業

[事務局から資料に基づき説明]

■委員長 補足があれば。

■健康推進課 健康福祉祭の参加団体が、健康部門で、医師会、薬剤師会、看護協会、理学療法士など職能団体に加えて、恵那病院、食生活改善、体育連盟等で13団体ある。市の保健福祉で4課、福祉のほうで社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会で10団体。そういう形で、今回の提言を受けて、非常に参加の方が少なくなっていることとマンネリ化という問題点があるので、委員と3月3日に話し合いをした。いろいろな方が健康を啓発してくれるので、健康祭はイベントとしては続けていく。そして、もっと参加しやすいよう、各地域で可能などころでは開催していく。今年は、いつも6月には榎ヶ根公園を確保するので、前回と同じ形態で行うが、理学療法士会の方が、高齢者の健康運動のような体の機能を弱らせないことを啓発する団体など新しい参加もある。そういう内容を加えて継続する。あと、場所は、榎ヶ根がいいのかもう少し市に近いところがいいのか検討し、今年やってからすぐ今後のことを検討しようという意見をいただいている。

■委員長 ほかに意見、提言があれば。一番大事な事業だが、この前も恵那駅からシャトルに乗っている人が少ない。いろいろないいことを用意しても関心があるかないかだ。そこをどう啓発するのかだ。私たちも自治連合会の中において、一度はそういうことについて、問題提起するが、役員が毎年交代する。その辺の温度差がどうしても出てくる。地域の周知の仕方に苦勞する。6月に実施して、新たな団体が加わってメニューが増える。終わったらすぐあり方論を検討するということだが、鉄は熱いうちに打てということなので、調査、欠点を把握し、欠点をどう克服するかだ。私どもも、皆さんが啓発運動をしていることは知っているがなかなか市民に伝わりにくいので、担当課だけでなく行政の各課が、くどいぐらいそういう課題を提起していくことが必要だ。健康福祉課だけ一生懸命頑張るの

でなく、そういうところにかかわっていただきたい。横の連携を深めることが大事だと思う。

■委員 私もかかわっている団体に所属している。去年行ったが恵南地域の参加が少ない。開催場所を各地に順に移動して各地で行うのもいいのではないか。

■委員 恵南地域の方は恵那の町まで出ていくのがハードルが高い。来やすいようにしてくれるのか、地域でやると参加しやすい。健康に対する意識が、食生活もそうだが、あまり関心が高くないようなので、その辺の意識改善を先に情報で流すといいと思う。

■健康福祉課 恵南にはバスも出していて告知放送で周知もしているが、なかなか来ない。地域の近いところで目にすると効果があるかもしれない。今後の検討課題にしたい。

■委員長 清流国体はかなり動員をかけた。それもイベントだが、これもイベントとして捉えると、そういうやり方は、大きな意味の、多種多様な人が集まれるのは槓々根だと思う。それに加えて地域で必要最小限のものをやりながら、隔年で盛り上げるとか、そういうしくみも大事だ。竹内さんのお住まいのエリアではやっているか。

■オブザーバー やっている。名前は違うと思うが、体力測定とか、簡単な、血管年齢をその場で教えてくれるとか、遊びの要素を入れると人が集まるかもしれない。

■健康福祉課 そういうこともやっている。

■オブザーバー 筋力とか。その場で結果を教えてくれる。

■委員長 それと併せて、平成28年に市立恵那病院が開院することと連動して、広い恵那市なので一堂に来られないので、出向くこともあったり。出向くメニューとこちらでやるメニューの違いを入れて、誘導する。その手法も含めて考えていただきたい。

■健康福祉課 恵那病院のコーナーは参加者が多い。そこで情報を提供できる。

18 ヘリポート整備事業

[事務局から資料に基づき説明]

■担当課から補足を。

■消防課 平成26年度事業の予算は350万。26年度の建設場所は現在調整中で、候補地は笠置町。

■委員長 質問はあるか。恵那市は利用率が高いそう。高いということは、あまりよくないということでもある。

■消防課 岐阜県内でも恵那市管内はドクターヘリの活用が多い。ドクターがオーバートリアージで、大げさかもしれないけれども事前に要請してくれということをお願いしており、通報を受けた段階あるいは救急隊が到着した段階の判断でヘリを要請し、実際にヘリが現場到着してドクターが患者を診て、これは大丈夫だということで活用しないというものもOKだと言っている。そういう意味で、活用が多い。

■委員長 一言で言えばそれだけ医療環境がよくないということだ。県の要請に呼応しているということだ。必要度の問題だと思う。連携して市民に安心感を抱いてもらいたい。

■オブザーバー 今さらだが、この事業は、県と市の役割分担はどうなっているのか。市がヘリポートを用意して運用は県がやるということか。

■消防課 ドクターヘリは岐阜大学にあり、それが飛んでくる、離着陸する場所が必要だということだ。その場所は、恵那市には56カ所ある。これは、学校のグラウンド、施設の駐車場が、臨時の離着陸場として指定して県に申請している。要請する場合に、どこのヘリポートという指定で、岐阜大学のCSという受付に要請する。グラウンドだとヘリが降りてくるときに砂や石が飛散するので、周りに被害がある可能性がある。できるだけ専門のヘリポートがいい。砂場であると、砂ぼこりを少なくするために消防車が行って水撒きをする。そういう人為的な手間も必要になるので、できるだけすぐに措置ができるのか、休日もよく要請があるが学校では先生がいないということもあるので、各地域で1カ所いつでも使える場所が必要になる。それで整備事業が始まった。整備しないとヘリポートを作らないとヘリが降りられないわけではないが、人為的なことや安全面を考えてということだ。

■オブザーバー 専用の場所を市が作れば、県や岐阜大学附属病院はそういうサービスをやるということか。

■消防課 そういうところがなくてもやる。

■オブザーバー 運用回数が増えているので必要性はあると思うが、まだ作るのか。去年確か飯地で作ると。それを笠置で作ると。

■消防課 地域からの要望を前提にしている。13地域全部でという計画だが、前提は地域の要望だ。ヘリポートを作らなくても、臨時の離発着でできるが学校に子どもがいれば使えないし、駐車場も車がいれば降りられない。

■委員長 20事業について、対応について話を聞いた。平成25年度の評価事業についての対応方は聞いた通りだ。次年度の事業のあり方について、思っているのは、行政からの提案事業も評価したらどうかということで、2年間ほどやったが、その内容は、行政内部で方向付けできるものばかりだったので、行政からの提案事業は必要ないのではないか。そういう視点からいくと、平成25年度の市民意識調査が出ており、意識調査については恵那市の各種事業について満足、不満足というもので、20ページの政策マトリックスで、重点課題、継続課題があり、上に行くほど満足度が高く、下へ行くほど不満足というものだ。行政評価では、市民委員会の、満足度の中でもさらに上を目指すための評価をする仕方もあるし、概ねは不満足の課題を事業の中でどう取り組んでいるのか、そのことを問題提起することの方がこの委員会の意味合いがあるのかと個人的には思う。来年度を目指して、

今日、出席の方については、その辺の、委員会ですべての事業について選考していきたい。重要課題で満足度の高いものもあれば、満足度の低いもの、あるいは継続事業としての捉え方などの、不満足が多い視点の事業を選択しながら、事業評価することを来年度考えてはどうか。

■委員 私もこれを見て、満足度の低いものと、重要度が低いというのが、まちなか市とか、在住外国人の国際交流の推進が一番低いのだが、平均的な数値だから、本当に必要とする人の数値は現れていないのではないかと思う。重要度が高くて不満足が高いという重点課題を集中的にやったらどうか。

■委員 私もそう思う。よりどころがないとなかなか選べない。そういう視線でいい。

■委員 時間も限られているので、重点課題を中心に、行政で分けられるものは行政で検討して先に検討していただいて、私たちが検討するものを絞ったほうがいい。

■オブザーバー その通りだ。切るものを探すということでは、重要度が低くて満足度が低い物をやればいいし、優先度を見るという意味では、重要度が高くて満足度の高いものを選ぶという方法もある。私はどちらかという、不要なものを切り捨てるというより、お金のないときに、より必要度の高いものに優先的に事業費を回していくという視点もあると思う。施策の優先順位を決める段階にいずれ入ったほうがいいと思う。それはまた非常に難しく、専門知識が要るので、来年は委員長のおっしゃるようなことでいいと思う。

■委員長 今日は限られた委員なので、政策マトリックスを参考にし、バランスを取りながら課題の事業の選定を図っていくということで、次年度は委員会側からこの辺を参考に事業選定し、第1回でそういう問題提起を含めてやっていきたい。今日は考え方を皆様方に聞いた。

■事務局 私どもも今年1年やり、まだ分からないところもあるし、方向性、27年が1回の締めくりになると思う。次期総合計画の中で市民評価をどうするか。今までは事業評価でやってきているものを、そのままがいいのか、31本の施策に沿った評価をするのか、このこと自体の課題もあるので、今日はこれでおいておき、1年間、皆さんがやって、事務局への指摘や感想を聞かせてほしい。

■委員長 これは行政の提案で執行段階から本段階に入った。行政が自分で行うところの事業について、市民目線で評価してほしい、それを反映していきたいという真剣度で考えるなら、まず一つは事務局が、私どもの委員会の担当者が1年1年で交代している。職員の優秀さで補ってはいるが、本気度があるなら、逆に委員会側の捉え方と、このことを受けた事務局がどうやっていくのか、我々とやりとりするぐらいのところから始まって、この委員会のあり方論がこうあるべきだということではいけないといけな。この間、試行段階を含めて、事務局の職員が1年ずつの交代というのは、真剣度があるのかと私は感じていた。その点、皆さん方で意見があれば。

■オブザーバー 確かに、年度の途中で職員が交代した。新しい方も大変だったと思うが。ちょうど慣れた頃に。私は、新総合計画を作るので、ある意味で総合計画の重点事業を考えるというのが事前評価で、今僕らがやっているのが事後評価で、前の総合計画で考えた重点説明の事業が本当に良かったのか検証するというスタンスだ。本当の予算配分を考えると、何にお金を使うかということに反映したい。そういう意味では新しい総合計画を作るのは大変いい機会だ。市民意識調査を毎年やっているのは5, 6万人の都市ではあまりない。ただ、反映しないと意味がない。来年施策評価をやって、再来年総合計画に生かせるといいと思う。

■委員 私は1年目だったのでよく分からなかったが、最初は数が多すぎると思った。今日もそうだ。半分ぐらいにしないと。

■オブザーバー 最初12のはずだったのにだんだん増えて20になった。

■事務局 事務方もしゃべり足りない。誤解のある中で終了するものがある。最終的に本意でない提言が出てしまうことがある。忸怩たる思いがある。もう少し時間をかけてやっていただくのも一つの手かと事務局としても思った。

■委員長 関連のことがあって増えたりした。

■委員 私も同じだ。事業の数が多かった。もう少しじっくりやりたかった。

■委員 事業の数が多いので、1つずつが分からないままになってしまった。それが気になる。

■オブザーバー 提言に対する対応を読んでも分からないので、もう一度議論を全部読み直している。いい議論をしている。質問に対する答え、全部読み直してみた。これを読んでもまだ全貌が分からないぐらい一つ一つの事業が深い。ヘリポートの問題でも、県と市の関係がやっと分かりかけてきた。そこまできたらどこに作るかという議論になるのだが。どうも消化不良だ。

■事務局 現場へ行って見てきたところは多分分かる。それ以外のところが分からないのだと思う。来年はなるべく、パワーポイントを使ったりして、見える化をして、重要度が見える化で事業を測量するようにして、掘り下げて理解を深めて評価していただけるような工夫をしたい。

■委員長 文字と説明だけでは分かりづらい。

■事務局 そうだ。特に、ハーフマラソンでも、行ったことがない人もいると思うので、写真や動画で映して、現場の様子を見ればまた違った視点になると思う。

■委員長 私も来月の4月20日に自治連で三郷の給水所で手伝いをする。5年やっているが、自治連が全部対応する。僕らは野井の市道で給水をする。確かにさまざまの人が走ってくる。走るだけの人もあり、しゃべりながら楽しみながらの人もある。水道課が持ってくるタンクの水を分けてあげるだけで、この水はうまいなあと言う。そういうことにつ

いて、確かに運営はもっとスムーズにするように、悪い印象を残さないようにしたい。

物事を見た上で説明を聞いて、そして意見を言っていただく手法を少し多めに持ってきてもらおう。それが対応できるように少しメニューを絞り込んでほしい。

[閉 会 16:20]